

第167回定例研究会

5月19日(木)

於:国労会館 および Zoom

## 若者の社会に対する意識と現地点

報告者: 中澤 秀一 氏 (静岡県立大学短期大学部)

### はじめに—若者をめぐる言説

本報告では、労働運動総合研究所プロジェクトとして実施した「若者の仕事と暮らしに関する実態調査」の結果から、若者たちが抱えている課題を明らかにし、そこから上がってくる要求とは何かを探ることを目的とする。

#### 1. 若者調査の概要

2018年1月～2019年7月に全労連加盟の単産や地方組織、国民春闘共闘委員会に参加する単産に調査票の配布を依頼し、組合員およびその周辺の非組合員や非正規雇用の方々の回答を得た。

#### 2. 仕事の充実度は高い一方で職場で問題も抱えている

仕事上の問題のうち「知識・技能を身につけるのが大変」と答えたのは7割、「多忙で身体的・精神的にきつい」は5割、「仕事に見合った賃金が支払われない」が5割、「セクハラ、パワハラ等嫌がらせを受けている」は14%。

#### 3. 困った時は誰に相談しているのか

仕事上の相談相手は、全体として職場の同僚、家族、友人が4割前後、職場の上司は2～3割。悩みの種類別にみると、労働組合は労働条件に関する悩みは3割強、職場の嫌がらせは2割強、人間関係は1割強。ただし、一般的には若者は労働組合への相談が少なく、同僚、家族、友人への相談が多い。

#### 4. プライベートを大切にしたい

働き方に関しては、「できれば定年まで同じ会社・勤務先で働きたい」という考え方に対して、肯定的評価は6割強、「自分に合う会社があれば転職したい」や「賃金は年齢や勤続年数よりも仕事の実績や成果に応じて決まる方が良い」も同じく6割強、「残業は極力減らしてプライベートの時間を確保したい」は約9割。

#### 5. 組合加入の動機

労働組合加入の動機では「ユニオン・ショップ制だから」が最も多く35%、それを除いた他の動機「同僚・先輩に勧められたから」が約6割、「ユニオン・ショップ制ではないが、ほとん

どのひとが加入しているから」が約3割、「労働条件や職場を良くしたいから」が3割弱、「職場の仲間がほしいから」が1割強。

#### 6. 未加入者はどう考えているか

未加入者に「労働組合に加入する気持ち」があるかをきいたところ、「加入したい」6%、「加入してもよい」16%、「組合に加入するつもりはない」は37%、「労働組合についてよく知らないので決められない」は21%。

#### 7. どこから組合に関する情報を得ているのか

労働組合に関する情報を得ている媒体についてきいたところ、最も多いのは「組合の機関紙やニュースレター」が63%、ついで「組合の会議・学習会・集会」が45%、「職場の壁新聞・掲示板」が37%など。「メールなどで配信されるニュース等」は11%、「ホームページやブログ」と「SNS」はともに8%。

#### 8. 生活の満足度は20代前半で低い

現在の生活の満足度は、20代未満が高く、20代前半で下がり、そこから徐々に高くなっていく。生活の項目別の満足度について、賃金・収入は不満と感じているのは6割を超える。

#### 9. 政治への関心は低い、社会変革の意識はある

「国や地方の政治に関心がある」について肯定的な回答は、年齢階層が低いほど否定的。「自分の生活と政治は関係している」についても同様の傾向。「みんなが力を合わせたら組織や社会を変えることができる」という社会変革を目指す考え方に肯定的であったのは、20歳未満～29歳68%、30～39歳74%。いまの若者は、社会を変えていく力として、政治家の決定を要する政府の政策ではなく、民間の活動に期待を寄せているかもしれない。

#### まとめ

若者にとって労働組合の存在意義がないかというところではなく、若者たちが抱えている課題に対して労働組合は力を発揮できる。もっと労働組合について知ってもらい、積極的に若者にアプローチすることが必要ではないか。

\*連絡先: 〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 静岡交通ビル3階301号 (静岡県評内)

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール [roudouadv@wave.wbs.ne.jp](mailto:roudouadv@wave.wbs.ne.jp) ホームページ <http://shizuokarouken.sakura.ne.jp/index.html>